

生誕100年 昭和を生きた画家
100th Anniversary Retrospective
— The Revival of the Artist's Spirit —

牧野邦夫

その魂の召喚

2026 3.31(火) — 6.7(日)

●開館時間＝10:00～17:00(入館は16:30まで)

●休館日＝月曜日(ただし、5月4日は開館)、5月7日(木)

●観覧料＝一般:1,200円(1,100円)、大学生:1,000円(900円)、市内在住65歳以上:600円(500円)
※()内は前売り券および20名以上の団体料金 ※高校生以下、障がい者およびその介護者は無料
※前売り券の販売期間:2月20日(金)～3月30日(月)(休館日を除く)

●主催＝茅ヶ崎市美術館(指定管理者:公益財団法人茅ヶ崎市文化・スポーツ振興財団)

●監修＝山下裕二(美術史家・明治学院大学教授) ●企画協力＝株式会社アートワン

《千穂の顔》(部分) 昭和55(1980)年 個人蔵

茅ヶ崎市美術館
CHIGASAKI CITY MUSEUM OF ART

AKINO KuniO

牧野邦夫



《未完成の塔》未完成 個人蔵(練馬区立美術館寄託)



《海と戦さ(平家物語より)》昭和50(1975)年 個人蔵

昭和に改元される前年の大正14(1925)年に生まれ、昭和61(1986)年に没した牧野邦夫は、まさに「昭和という時代を生きた画家」でした。昭和18(1943)年、東京美術学校(現・東京藝術大学)油画科に入学、伊原宇三郎、安井曾太郎から指導を受けますが、同20(1945)年5月に応召。翌年に復学し、同23(1948)年に卒業したのちは、特定の絵画団体などに所属することなく、個展を開催して発表を続けます。終生、権威的な画壇とは無縁だった牧野の作品は、美術館にはほとんど収蔵されず、個展を開催するたびに熱心な個人コレクターが収集し、その多くは秘蔵されてきました。

本展は生誕100年を記念した大々的な展覧会です。コレクターの方々が秘蔵する作品により、昭和時代を駆け抜けた牧野の画業を振り返るとともに、その作品の意義を現代に問ひかけます。牧野邦夫は、モダニズムなど眼中になく、終生、ある意味愚直に描き続けた人でした。そんな彼の絵描き魂が召喚され、この令和の時代に、昭和の画家が甦ります。



《ガスコンロと静物》昭和45(1970)年 個人蔵



《賭けをする人達》昭和51(1976)年 茅ヶ崎市美術館蔵



《黒い布つけた自画像》昭和50(1975)年 個人蔵

関連イベント

舞踏「異界を招来する画家、牧野邦夫に捧ぐ」

出演＝大森政秀(天狼星堂主宰)
日時＝4月11日(土) 15:00～15:30
会場＝展示室
料金＝無料(申込不要、要観覧券)

講演会「牧野邦夫と茅ヶ崎」

＊申込方法はウェブサイトをご覧ください。

講師＝山下裕二
(本展監修者・明治学院大学教授)

日時＝4月25日(土) 14:00～15:30
定員＝350名
会場＝茅ヶ崎市民文化会館小ホール
(神奈川県茅ヶ崎市茅ヶ崎1丁目11-1)
料金＝500円(要チケット購入)

講演会「牧野邦夫展の実現に向けて」

講師＝森谷美保(本展学術協力・東京工芸大学教授)

日時＝5月10日(日) 14:00～15:00
定員＝50名
会場＝美術館エントランスホール
料金＝無料(申込不要、当日先着順)

キュレータートーク

担当＝小澤由季(本展担当学芸員)
日時＝5月2日(土)、5月31日(日) 14:00～14:50
会場＝展示室
料金＝無料(申込不要、要観覧券)



《舞踏家大森政秀の肖像》昭和55(1980)年 個人蔵



茅ヶ崎市美術館

CHIGASAKI CITY MUSEUM OF ART

〒253-0053 神奈川県茅ヶ崎市東海岸北1-4-45

Tel.0467-88-1177 Fax.0467-88-1201

<https://www.chigasaki-museum.jp>

詳細、最新情報は当館ウェブサイトをご覧ください▶



SNSでも情報発信しています

